

新しい生活様式における民生委員児童委員活動に向けて

News letter M I N S E I

Vol. 3 2021.8

●川崎市宮前区宮前第3地区民児協の活動をご紹介します●

「3密」を避けつつも「密な」コミュニケーションを欠かさない 地区民児協の活動



オンラインで開催！「プレママとママの集い」

2021年2月19日、川崎市宮前区馬絹にある『泉福寺』で、オンライン会議ツールZoomを使った子育てサロン「プレママとママの集い」が開催されました。もともとは宮前地区会館で対面で行われていましたが、緊急事態宣言下で集まるのが難しくなり、オンラインで開催することにしました。

当日は関係者も含め9名が参加し、小さな子どもを抱える参加者同士の情報交換のほか、保健師に離乳食の相談をする人もいました。参加したママは「小さな娘がいるので出かけにくいですが、オンラインなら気軽に参加できてありがたいです」と話していました。

「プレママとママの集い」を企画したのは、宮前第3地区民児協の皆さん。会長の浮岳さんは、オンライン開催の会場となった『泉福寺』の副住職です。住職である父が委員を5期務め、浮岳さんはその跡を継ぎ、34歳で委員になりました。

その後、浮岳さんが会長になって、地区民児協の連絡にはLINEを使うようになりました。LINEでのやりとりが活発になるにつれて、伝達事項だけではなく「散歩に行ったときにこんなお店を見つけた」というような日常的なやりとりが増え、そのような気軽にやりとりができる雰囲気と浮岳さんは言います。

サロン開催に向けて～コロナ禍でのZoom活用～

そうした中で、オンライン（Zoom）を活用してみようというアイデアは、新型コロナウイルス感染症の影響で集まることが難しくなったことをきっかけに、委員の中から自然な形で出てきました。地区民児協の中に仕事でZoomを使っている委員がいたため、やり方をまとめて他の委員に教えてくれました。その後、希望者を募ってZoomの練習会、さらにはZoomで忘年会や新年会も開催し、楽しみながらサロン開催に向けてZoomを学び、慣れていきました。

「プレママとママの集い」当日、主任児童委員の目代さんが司会を務め、他の委員は、会場である『泉福寺』に集まって、Zoomでのやりとりの様子をスクリーンに映写して見守っていました。

オンラインでサロンを開催しているようす



会長の浮岳さんにお話を伺いました！



民生委員児童委員は例えるなら「野球の守備」

委員の役割は「野球の守備」に近いと話す浮岳さん。「野球の守備」は、常に半身の態勢をとり、ボールが来たら素早く適切なポジションに投げ返します。委員は、問題が起きたときに、いかに早く適する窓口につなぐことができるかが大切です。また、「ひとりひとりの資質や知識も大切だが、1番大切なのはコミュニケーション」と浮岳さん。そのために、SNSなどのコミュニケーションツールを上手に活用することも大切だと話してくれました。

Zoomなどのオンラインに慣れていない委員でも、この経験をきっかけに「自分でもやってみよう」と考える人もいたそうです。今後も、オンラインと対面での開催を併用して行おうと宮前第3地区民児協の皆さんは考えています。

「役に立って楽しみもあること」を目指して

もちろんオンラインでの活動がすべてではありません。地域の高齢者の会食会などはオンラインで実施することは現段階では難しく、広報紙を配ったり、ラジオ体操を企画するなど、感染予防をしながら対面での活動も続けています。

今回のサロンをオンラインで行ったことで、「いろいろな展望が開けた」と言う浮岳さん。「みんなで集まれないならどうしたらいいかなど、目の前の課題に対応する時には、役に立って楽しみもある方法や考え方で活動することをいつも大切にしています」と話してくれました。

今後に向けて話し合う地区民児協の皆さん



* 神奈川県社協 民生委員児童委員部会は、県・政令市の民児協が参画する協議体です。様々な地域性やきめ細やかな幅広い委員活動から得る多様な情報や知恵を集結し、県政令市の枠を越えて、交流、研修情報収集、意見具申など、スケールメリットを活かした協働事業の運営を行っています。

* このニュースレターは、神奈川県内の民生委員児童委員向けに「新しい生活様式」に向けた委員活動やコロナ禍における委員の思いを発信するために、不定期に発行します。



ホームページ：<http://www.knsyk.jp/>



ツイッターアカウント：@kanagawa_syakyo